

令和4年3月30日

令和4年春日部大凧あげ祭り 無観客で開催

令和4年春日部大凧あげ祭りは、無観客で開催します。

大凧あげ祭りは、子どもたちの健やかな成長を願う伝統行事として国選択無形民俗文化財にも選定されており、2日間で約13万人の観客も訪れる本市を代表するイベントです。令和2年・令和3年は、新型コロナウイルス感染拡大防止の観点から開催を見送りましたが、今年は感染対策を徹底し、春日部市「庄和大凧文化保存会」をはじめとする関係者の手により、例年より規模を縮小して開催します。

大凧あげの当日の様子は、後日、市WEBなどで公開する予定です。

◇ 開催日・会場

5月3日(祝) 西宝珠花地先 江戸川河川敷(宝珠花橋下流)

※例年は5月3日・5日の両日ですが、3日が雨天中止の場合のみ5日開催します

◇ 当日の対応

一般観覧

- ・ 観覧はできません
- ・ 駐車場、臨時直通バスの運行はありません
- ・ 飲食店などの出店はありません
- ・ 観覧者が集まらないよう、会場周辺に警備員を配置します

初節句のお祝い

- ・ 初節句祝い申し込み者には、名入り凧の受け渡しと家族ごとの記念撮影を行います

大凧の引き手

- ・ 一般募集は行わず、祭り前後2週間の体調記録などを行う関係者のみで実施します

◇ 今年の大凧・小凧の文字

大凧文字は一般応募(応募総数87件)、小凧文字は市内小学5年生から応募(応募総数54件)より、選定・決定しました。

大凧 『春日部』、『躍進』

文字に込められた思い ～コロナが収束し、春日部が発展していく事を願って～

小凧 『笑顔』、『感謝』

文字に込められた思い ～コロナの中でも笑顔を忘れず生活したい。また、医療従事者の方をはじめたくさんのサポートをしてくださる方々に感謝の気持ちをわすれないため～

庄和大凧文化保存会の上若組が『春日部』、『笑顔』、下若組が『躍進』、『感謝』を制作します。

◇ 春日部大凧あげ祭りとは

大凧あげ祭りは、江戸時代後期、出羽の僧侶により養蚕の豊作占いとして凧あげが伝えられたのが始まりで、現在では初節句を迎える子どもたちの健やかな成長を祈願して行われています。

平成3年には国選択無形民俗文化財にも選定され、例年、全国各地から13万人を超える観客が訪れています。

畳で百畳分(縦 15 メートル、横 11 メートル)、重さ 800 キログラムの大凧は、和紙と竹を用いた伝統の技法で3か月近くをかけて、春日部市「庄和大凧文化保存会」の会員が手作りしています。

「上若組」「下若組」という2つの組により作られた 2 張の大凧は、白地に赤と緑を染め抜いた揃いの半纏(はんてん)、鉢巻き姿の若衆たちが揚げます。組長が鳴らす軽やかな鈴の音を合図に、勇ましい掛け声と共に一斉に綱が引かれ、百畳敷の大凧が空高く舞い上がる姿は、まさに勇壮の一言です。

当日の取材を希望する報道機関記者は、下記へお問い合わせください
今後の新型コロナウイルス感染状況などによっては開催を中止する場合があります

問い合わせ先

春日部大凧あげ祭り実行委員会事務局
(環境経済部観光振興課内)
担当 坂巻、後藤
内線 7768